

01

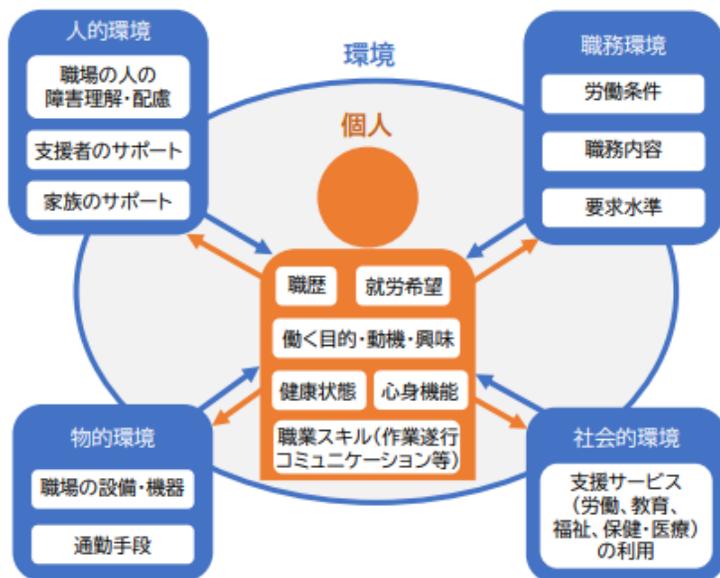
一般企業への就職

(診断名を伝えない、または就職後に診断がついた場合)

発達障害があっても特に支援を受けずに学生生活を過ごし、一般企業に就職したり、家業を継いだり起業したりなどして経済的に自立している方は多くいらっしゃいます。

しかし仕事と自分の特性が合わないことに悩んだり、二次障害（うつや身体症状など）を発症して精神科を受診したり産業医の面談を受けて、初めて自分が発達障害を持っていることを知る方が最近増えてきています。

下の図は、職業生活における「個人と環境の相互作用」について示した図です。仕事の「合う」「合わない」は個人によって違いますし、「どんな環境が合っているか」「障害をオープンにするかどうか」についても正解はありません。「マイストーリー」や「体験談」も次ページ以降に掲載していますが、あくまで例としてご本人の選択の一助になれば幸いです。



(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター 発行「就労支援のためのアセスメントシート活用の手引」p2より引用)

(P.65)「マイストーリー2 40代男性 金融関係勤務」もご覧ください。